

# 石山氏「離党も辞さず」

東北選出  
議員

## 反対訴え相次ぎ会合

環太平洋連携協定（TPP）交渉参加問題で、東北などの民主党国会議員の一部は10日、衆院議員会館で会合を開き、党執行部に慎重な対応を求めた。

構えで執行部と折衝する  
よつ主張した。

会合は「TPPを慎重に考える会」の役員会。

党のプロジエクトチーム（PT）が政府に慎重な判断を促す提言をまとめたにもかかわらず、野田佳彦首相の参加表明観測が流れたことへの反発も広がった。舟山康江氏（参院山形選挙区）は会合後、「PTの結論と違う」と憤った。

石山敬貴氏（衆院宮城4区）は「被災地の復興への心が折れるような判断をするなら、もつこの党を見限らせていただく」と語り、離党も辞さない

超党派の国会議員グループも同日、会館で記者会見し、アジア太平洋経

済協力会議（APEC）

首脳会議での参加表明を見送るよう求める国会決議について、衆院議員232人分の賛同署名が集まったと発表。東北からは25人が名を連ねた。

呼び掛け人の一人、小野寺五典氏（衆院宮城6区）は「首相経験者ら賛同者になじまない議員が相当おり、賛成する議員はもっと多い」と述べた。

同じく斎藤恭紀氏（衆院宮城2区）は「野田首相

が参加に前向きな姿勢を見せる中、民主党は96人が覚悟を持って署名した。手段を選ばずTPPを食い止める」と話した。

### 「野田政権の弱さを露呈」

野党指摘

野党は10日、野田佳彦首相が環太平洋連携協定（TPP）交渉参加の方針決定を先送りしたことに対し「民主党内をまとめきれない政権の弱さを露呈した」（斎藤鉄夫公明党幹事長代行）などと指摘した。

自民党の谷垣禎一総裁は都内での会合で「どう